2024-2025年度　国際ロータリーのテーマ

第10回例会

ロータリーのマジック
THE MAGIC OF ROTARY

Rotary

国際ロータリー 第2550地区
宇都宮東ロータリークラブ会報

http://www.ri2550uerc.gr.jp/

会　長 細谷　俊夫　幹　事 伴　誠　会報・雑誌委員長 床井　光雄

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ　例会日 毎週火曜日（12：30～）　事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3060号　2024年9月10日（晴れ）第10回例会　会員数99名

ハイブリッド例会

点　鐘　細谷会長
司　会　副ＳＡＡ　飯村会員

◇ロータリーソング「奉仕の理想」
◇本日のランチ　牛鍋　香の物　みそ汁　御飯

ビジター紹介　田﨑会長エレクト

◇卓話者　ＪＲ東日本　執行役員　大宮支社長
大宮支社鉄道事業部部長　石井剛史様

会長挨拶　細谷会長

皆さん、こんにちは。９月は「基本的教育と識字率向上月間」と「ロータリーの友月間」です。ロータリーの友については、先週お話ししましたので、今日は、基本的教育と識字率向上についてお話いたします。世界には、読み書きのできない15歳以上の人の数は７億5000万人、全世界の人口の17％を占め、学校に通っていない子供は、6700万人いるそうです。皆さんは、日本の識字率は100％、と思うと思いますが、違います。日本の識字率が100％でない理由は、戦中・戦後に子供時代を過ごした世代の識字率が低いためと言われています。現在は義務教育が行き届いているため、子供や若年層に非識字者はほとんどいません。一方で、令和４年度の小学校の就学率は99.96％で、100％に満たないことが文部科学省の統計でわかっています。もちろん小学校に通っていないからといって、文字の理解や読み書きができない非識字者なわけではありませんが、日本にも少なからず小学校に通っていない子供がいる、100％の識字率ではないことを理解しておきましょう。

今日の卓話は、ＪＲ東日本執行役員大宮支社長大宮支社鉄道事業部部長の石井剛史様です。「宇都宮エリアにおけるＪＲのこれまでと今後について」ということで、お話をいただきます。どういうお話が聞けるか楽しみです。

幹事報告　伴幹事

◇ロータリーレート　９月は１ドル145円。
◇本日18時30分～　ホテルニューイタヤにて　細谷年度第３回定例理事会開催。
◇クラブ現況報告書をレターBOXに配布。
◇来週９月17日例会は西根伸行第３グループＢガバナー補佐訪問。第２回クラブ協議会開催。理事役員、特に入会３年未満の会員はご出席を。
◇９月３日の地区ゴルフ選手権の報告
当クラブは団体戦準優勝。個人戦では古瀧会員が第４位、石田会員が11位。

委員会報告

◇出席委員会　鈴木委員長
＜皆出席表彰・８月分＞
通算33年　羽石　光臣会員
連続８年　金子　剛会員
連続７年　小林　弘治会員
連続３年　永井　泰幸会員

◇趣味の会　墨東倶楽部　片嶋会員
松本弘元（宜響）会員の書道展のご案内
「松本宜響書道展並びに一門展」9月16日（月）～9月18日（水）、栃木県総合文化センターにて開催。墨東倶楽部の作品も展示されます。

卓　話

「宇都宮エリアにおけるＪＲのこれまでと今後について」

ＪＲ東日本 執行役員 大宮支社長 大宮支社鉄道事業部部長　石井 剛史 様

皆さん、こんにちは。本日は、卓話の機会をいただきありがとうございます。東日本鉄道㈱には支社が11社ございます。私の所属する大宮支社は、埼玉県、栃木県、茨城県の一部を管轄し、主に鉄道を中心に事業をしています。入社は1993年で、大宮支社には２か月前の６月20日に着任いたしました。本日は、鉄道会社が直面している課題、どう対処しようとしているのか、ＪＲ東日本、そして、ＪＲ東日本宇都宮エリアという視点でお話させていただきたいと思います。

－　スライドにて説明　－

はじめに、2018年７月に発表された、ＪＲ東日本グループの経営ビジョン、「変革2027」について少し触れさせていただきます。一言でいいますと、鉄道が将来、どんな課題に直面するか、どんなことをやっていくか定めたビジョンです。会社の発足は1987年で、国鉄改革がありＪＲとして旅客鉄道と貨物鉄道に民営化しました。1987年から10年位は、鉄道のインフラ強化、輸送力強化、生活サービスの事業も伸ばしてきました。次の10年では信頼性をあげてまいりました。これからの10年は、鉄道事業を中心とすることは変わりませんが、人が生活するうえでの豊かさ、暮らしやすのために、鉄道は何ができるか、というヒト視点で事業をすることが基本方針でございます。

また、将来、人口が減少していくことが目に見えています。大きな課題として、人口減少にどう立ち向かっていくか、経営危機感として持ちましょう、ということです。ＪＲ東日本グループの強みは、東京という首都圏を中心として各エリアを繋ぐネットワークです。輸送ニーズが減っていくことが予測されますが、ネットワークを使って、駅等多くの人が交流する場所を最大限、ポテンシャルを引き出して事業を行っていきます。

都市を快適に、ということで、出発地から目的地まで、他の交通機関と連携をして、人の移動の利便性を高めていきます。「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム」により、「シームレスな移動」の実現を主導し、ストレスフリーな移動にしていきます。また、輸送サービスにおいては、直通運転で乗り物の利便性を高めています。最近の話題では、羽田空港アクセス線に着工・着手しました。地方を豊かに、ということでは、駅の利便性を高め、各エリアを繋ぎつつ地域を盛り上げていくことを掲げています。

コロナの時期、経営的にはしばらく赤字計上でした。こうしたことも踏まえ、鉄道を中心とした「モビリティ」と「生活ソリューション」の両輪で、事業をしっかりとやっていくことが経営ビジョンでございます。このことは、会社の収益というよりも、鉄道路線、ネットワークの維持にも繋がります。

ＪＲ東日本の現状についてお話いたします。

・運輸業（モビリティ）と生活ソリューションとして、流通・サービス事業（広告や駅の構内販売等）、不動産・ホテル事業、その他ＩＴ・Suica事業における収益、利益、資産を説明。
　鉄道は資産も多く、収益も多いが、維持費が高くなり、割合として利益は少ない。
・コロナで働き方も変わったが、首都圏に人口が集中するという傾向はまだ続くと考える。
・長距離移送は新幹線が利用されている。飛行機と比較すると、仙台エリア位までは、新幹線のシェアがほぼ100％。

次に、栃木、宇都宮エリアでどんなことをやっているのか少しご紹介します。栃木県エリアは、宇都宮線、東北線、新幹線、日光線、烏山線が主な線になります。乗車人員は、コロナ前と比較すると、８～９割位戻ってきました。私たちが目指すことは、栃木に来ていただくニーズをどんどん掘り起こして促進していくこと、また、地元とタッグを組んで、農産物等を売りにして、地域の魅力、新たな価値を創出していくこと、そして、地域の課題を、鉄道を通じて解決していくことです。私たちの事業は、私たちだけで成り立つわけではなく、地域の皆様と連携しながら進め、取組んでいきます。具体例を少し紹介いたします。

・宇都宮ライトレール１周年記念を宇都宮市と一緒に行う。
・いろいろな所で栃木のいちごの紹介・販売。
・新幹線での物流ルートを作る。
・来年は、宇都宮線、東北本線140周年。そのプレで、イベント等、いろいろな情報を発信。

これからも地域にしっかり根ざした鉄道会社、ＪＲ東日本ということで、役割を担って参りたいと思います。どうか、ご理解、ご支援をいただければと思います。